Development of Non-Concentrating type Solar Thermal Energy Conversion

Eisei NIGEME, Toshinori KOJIMA, Takuya ITO and Seiichi SUZUKI (Submitted on June 30, 2016)

非集光型太陽熱温度差発電の開発

逊目英正*1, 小島 紀徳*2, 伊藤 拓哉*2, 鈴木 誠一*2

Although OTEC has good characteristics as a base load power supply, from view point of stability and resource amount, it has not been put to practical use because of its high power generation cost. In our previous paper¹⁾, the OTEC generation cost was shown to be reduced to 43.4 \pm/kWh , with 1 MW output capacity facility by optimizing the system with water intake and generation equipment. However, it is still much higher than the value, 5 - 10 \pm/kWh , of the coal fired power generation cost. It causes the difficulty of commercial application of OTEC system. The major factor of the high generation cost is low temperature of high-temperature side heat source.

In this study, we conducted a conceptual design on the non-concentrating type solar heat collecting system as a low cost auxiliary equipment of the high-temperature side heat source in OTEC. And we also optimized the total system by optimizing of the power generation equipment to fit to the temperature range. And we also estimated its power generation cost for larger scale system. The present results were also compared with those of OTEC alone, OTECs with other auxiliary high-temperature source and solar power generation systems. By the calculated results with Kume island conditions, optimum high-temperature side temperature was 95 °C, and generation costs were 11.3 $\frac{1}{2}$ /kWh for 10 MW, 7.0 $\frac{1}{2}$ /kWh for 100 MW and 4.6 $\frac{1}{2}$ /kWh for 1 GW output for each. These figures are comparable or even cheaper than the cost of other systems, and it suggests the competitivity of OTEC to coal fired plant.

Although this power generation system is a combination of the past technologies, enjoying advanced technology in each field, the contribution of cost engineering and optimization to the cost reduction is great. And selecting the site blessed with solar radiation dramatically reduces the generation cost. Worldwide there are many sites suitable for this power generation method, suggesting that it will lead to full - commercialization of renewable energy as a base load power supply.

OTEC は安定性や資源が無尽蔵など、基幹電源としての特性を有するものの、発電コストが高く実用化に至っていない。 筆者らは前報¹⁾で、取水設備および発電装置の諸元の最適化により発電コストを出力1000 kW で 43.4 ¥/kWh に下げられる と試算した。しかしこのコストでは石炭火力発電の5~10 ¥/kWh に比べて高く、本格的普及には至らない。発電コストが 高くなる主因に高温側熱源温度が低いこと、スケールメリットを得るに至っていないことがある。

本報では OTEC の高温側熱源の補助装置として「非集光型太陽熱集熱装置」を新たに概念設計し、取水装置、発電装置の コストエンジニアリングとともに仕様を最適化し、スケールアップしたいくつかのケースについて発電コストを試算した。 本補助装置を用いた場合、高温側熱源温度の最適値は約95℃となり、久米島の条件の下で概算発電コストは出力1万kW で11.3 ¥/kWh、10万kW で7.0 ¥/kWh、100万kW で4.6 ¥/kWh となった。これは比較した再生可能エネルギーに依る他の 発電方式に比べても安価で、石炭火力発電に対しても価格競争力を持つ。

本発電方式は既往技術の組み合わせであるが、各分野の先端技術を享受し、コストエンジニアリングと最適化の効果は 大きいことが分かった。また日射量に恵まれたサイトを選ぶことで発電コストは大幅な低減が期待できる。世界的には本 発電方式に適したサイトは多く、再生可能エネルギーの基幹電源としての本格的普及につながることが示唆された。

Key Words

Ocean Thermal Energy Conversion (OTEC), Non-concentrating type, Solar heat, Cost engineering, Optimization

*1 Design Water, Co., Ltd	† Corresponding Author (kojima@st.seikei.ac.jp)
530-1, Miwamachi, Machida-City, Tokyo 195-0054, Japan	*1 株式会社デザインウォーター
*2 Seikei University, Department of Science and Engineering	〒195-0054 東京都町田市三輪町530-1
3-3-1, Kichijojikita-cho, Musashino-City, Tokyo 180-8633,	*2 成蹊大学 理工学部 物質生命理工学科
Japan	〒180-8633 東京都武蔵野市吉祥寺北町3-3-1

1.1 研究の背景と目的

前報¹では、取水設備を含むOTECの諸元の最適化により、 発電コスト低減の可能性を検討したが、基幹電源としての 普及が可能になるような改善には至らなかった。そこで本 報では、高温側熱源の補助装置として、「非集光型太陽熱 集熱システム」を試設計し、コストエンジニアリングと最 適化による発電コスト低減の可能性を検討した。

1.2提案発電方式と最適化手法

(1)全体構成

本発電方式(Non-Concentrating type Solar Thermal Energy Conversion: NC-STEC)は非集光型太陽熱集熱装置、 熱媒体送水路(Water way)、貯水池(Reservoir)、海洋深層 水取水装置(Deep seawater intake facility)、発電装置 (Generator)により構成される。Fig. 1に全体配置図を 示す。海洋深層水取水装置は世界的に見れば多くの実績を 有し、新たな研究開発を必要としない。発電装置は最適化 の結果、カリーナサイクル機が適し市販品で調達できる。 その際、熱交換器性能の影響が大きいが、OTECで開発され

た高性能熱交換器を組み込むことができる。しかし集熱シ

ステムについては新規開発が必要となった。

(2) 最適化手法

Fig. 2 に集熱装置、取水装置、発電装置の諸設定の全体 としての最適化手順を示す。熱サイクルにおける独立変数 (高温側流量、入・出温度、低温側流量、入・出温度)を 一つずつ変化させながら、サブシステムの個別最適化を経 た上で発電コストを算出し、その独立変数に対する最小値 を探し、独立変数全てで発電コストが最小になる独立変数 および諸設定の組み合わせと発電コストが得られる。

Fig. 3に集熱装置の最適化フローを示す。大凡の形態は STEP 1 で試行錯誤と経験的に求め、構造詳細は STEP 2 で装 置・部品ごとに①~⑥の各寸法を前述最適化を試算した上 で求めた。更に細目別には例えば①については以下の最適 化が必要となる。

a. 反射装置の断面の長さ

b. 反射板の幅(散乱光〜吸収、製作・施工誤差) 具体的には、b1. 太陽視差、b2. 製作・設置、b3. 制御誤 差・外力と撓み〜支点距離・板厚、b4. 運搬性、b5. 施工 性、維持管理のし易さ、b6. 仮定値に対し、発電コスト を算出、設定値を少しずらしながら最適値を求める。

- c. 反射板の汚れ、設置傾き、清掃法
- d. 反射板の傾き
- e. 制御方法~エネルギーロス(発電コスト)
- f.太陽高度が低い時処理~エネルギーロス(発電コスト) を最適化している。

同様に②~⑥、海洋深層水取水装置の構造詳細および発 電装置の諸元も最適化を要するが、手法は同じなので割愛 し、結論として得た形態、仕様、工事費を次に概観する。



Fig. 1 Schematics of non-concentrating type solar thermal energy conversion system (NC-STEC)



Fig. 2 Optimization procedure

STEP1 Optimization of the form of heat collector
(1) It has a simple shape, few parts, makes it easy to manufacture and
transport, and reduces production cost
② Shape to receive the merit of scale
③ Less movable parts, easier to control, lower maintenance costs
④ Reduce the stroke and lower the operation cost
STEP2 Optimization of structural details (material, dimensions)
① Reflector plate (material, width, length, thickness) - energy loss
(power generation cost) minimized
② Minimize receiver shape (width, length, thickness) - energy loss
(power generation cost)
③ Pedestal, control device (safety - optimization of production cost)
④ Placement plan (efficient utilization of land - minimization of energy
loss by arrangement)
(5) Water supply pipe arrangement, pipe diameter - power optimization
6 Reservoir shape, capacity - Operating rate (power generation cost)
optimization
Fig. 2 Optimization providure of boot collection

Fig. 3 Optimization procedure of heat collection system (sub flow)

2. 非集光型太陽熱温度差発電方式の概要

2.1 非集光型集熱システム (NC-SH)

 Fig. 4
 に集熱装置の断面図を、Fig. 5
 に貯水池の断面

 図を、また各行程の熱効率をTable 1
 に示す。

高温側熱源補助装置では、トラフ型^{2.3)}、フレネル型⁴⁾、 ディッシュ型^{5,6)}など既往集熱装置の適用性を検討したが、 それぞれの目的・環境で最適化されており、海洋深層水冷 熱 (3 \mathbb{C} ~7 \mathbb{C})を活かして発電コストを低減するには不十 分で、新たな集熱装置を開発することとした。

次にサブシステムごとに特徴および発電コストへの影響が大きい仕様、熱効率、工事費について述べる。

2.1.1 反射板 (Reflector)

Fig. 4の反射板表面の点は平面鏡の分割を示す。平面を 組み合わせることで、製作・制御が容易になるとともに、 散乱光の一部も取り込める。太陽軌道の追尾機構、架台、 基礎等は簡素な構造で、製作・制御・管理が容易となり、 コストを抑えられる。集光過程での熱効率は、既往資料に 基づき Table 1の(1)に示すように設定した。

2.1.2 レシーバー (Receiver)

レシーバーの形状は太陽視半径、散乱光の取り入れ具 合、反射板との距離、外力への安全性、エネルギーロスな どから決定した。エネルギーロスを抑えるため、反射光の 透過面は反射防止剤を塗布した二重ガラスとし、残り三方 は断熱材で覆う。ここでは経験的に内のり横 5cm×縦 15cm の矩形水路を用い、計算に用いる熱効率は既往資料に基づ き、Table 1 の (2)のように設定した。なお、熱媒体の水 温は日射量に応じて流速で調整できる。

2.1.3 送水管(Waterway) および貯水池(Reservoir)

熱媒体送水管(熱水管、温水管の延長 1km、流速 1.0m/s) における水温低下は、伝熱計算により、熱水管で 0.16℃、 温水管で 0.07℃、合計 0.23℃、これは集熱量(水温上昇 40℃)に対し 99.4%となる(Table 1 の(3))。貯水池は、出 力 1 万 kW で高温側流量は 2.8 万 m³/d、天候不順に備え 65 時間分の容量は 7.5 万 m³となり、熱水と温水を隔離した構 造(Fig. 4)では、一辺 100m、深さ 15m となる。

大規模貯水により、3日間貯水したとき伝熱による水温 低下は0.24℃で、熱効率は99.4%となる(Table1の(4))。 熱水温度が95℃と低いため密閉状態で約1.3気圧となり、 地下3mに設置することで特別の装置は必要としない。構造 が単純でスケールメリットが大きく、コスト低減が図れる。

2.1.4 総合的集熱効率

太陽光の行程に沿い、既往資料に基づき個別に熱効率を 設定し、総合的集熱効率はその積で求めた(Table1(5))。 集熱温度は最適化の結果 95℃となったが、太陽熱発電

(400℃~1000℃)と比べ低いため、集熱・熱媒体輸送・蓄 熱の全行程でエネルギーロスは小さくなる。



EXAMPLE 2 Cross-sectional view of NC-SH (Plan with reduced movement and manual position control)



Fig. 5 Cross-sectional view of reservoir

Table 1 Heat efficiency

Item		Details	Standard ^{*1}	Calculatio n ^{*2}
ing	① Reflector	Dirt influence	$95\% \sim 100\%$	97.50%
	(See Fig. 4)	Reflectance	90%~95%	92.50%
lect ⁄ice		Flatness errors	$\sim \! 100\%$	99.90%
Ref dev	②Ruler	Size errors	$\sim \! 100\%$	99.90%
(1)	③Pedestal	Strain	$\sim 100\%$	99.90%
	④Shifter	Sift error	$\sim 100\%$	99.90%
	①Receiving rate	Solar parallax	$\sim 100\%$	99.90%
/er	②Glass surface1	Transmittance	96%~98%	97.20%
ceiv	Glass surface2	Transmittance	96%~98%	97.20%
Re	③Heating body	Conversion rate	$\sim 100\%$	100%
(2)	④Insulator	1-heat loss	97%~99%	97.30%
	⑤External Size erro		$\sim 100\%$	99.90%
(3) Water way		Conduction	99.4%~	99.40%
(See Fig. 1)		Radiation	Radiation $\sim 100\%$	
(4) Reservoir		Conduction	99.4%~	99.40%
(See Fig. 5)		Radiation	$\sim 100\%$	99.90%
(5) Hea	t efficiency			81.20%

*1 Distribution or theoretical value of past data *2 Value used for power generation cost calculation

2.1.5 材料、数量、単価、工事費

出力1万kW、久米島の環境において概略設計を行い、最 適化を経た集熱装置の仕様、材料、数量、単価、工事費を Table2に示す。材料単価等は公共事業に準じた。出力(反 射板面積)拡大時は出力1万kWhを基準に前報¹⁾同様、0.82 乗則で10万kW、100万kWの工事費を算出した。

2.2 海洋深層水取水装置

2.2.1 構造型式、工法

従来の日本の海洋深層水取水工法は研究施設の小規模取 水を対象とし、発電施設の大規模取水には参考にならない。 大規模取水に対応するものでは、ハワイ NELHA の取水量 25 万 m³/d(取水管 \u03c6 1400mm,設計・施工 Makai 社)、国内では NED0 の研究報告書⁷⁾があるがコストは不十分であった。

そこで筆者らは新しい取水工法の設計・施工計画・見積 などで海洋工事専門業者とコストエンジニアリング・最適 化を協働し、Fig. 6に示す DW 工法を完成した。提案工法の 特徴は環境条件によらず、安全性、施工性、適用性に優れ、 揚水動力を含めた諸設定の最適化と低コストにある。

本工法についても集熱装置同様、詳述すべきところであ るが、前述検討は1995年~2006年と古いこと、2010年~ 2011年には本工法でモルディブの取水施設(日立製作所発 注)を計画⁸⁾し関係者の合意を得たこと、2011年~2012年 には同基本設計⁹⁾でハワイ Makai 社と協働し、大方の合意 を得たことなどから、ここでは新たな研究開発は不要と考 え既往技術を採用した。

2.2.2 仕様、工事費

久米島、出力1万kWを条件に、熱サイクルから最適化された流量、水温などに基づき、DW工法で概略設計を行い、 全体として最適化された仕様、工事費をTable 3に示す。

工事費は施工会社との過去の協働による施工計画、見積 を基準として算出したが、施工時の社会状況、物価の動向 に留意が必要である。

2.3 発電装置

2.3.1 対象機種、設定温度と発電効率

高温側・低温側熱源の最適温度は発電方式、環境条件に より異なるが、NC-STECでは高温側80℃~100℃、低温側5℃ ~10℃辺りが最適値となった。高温側と低温側の温度差が 小さい場合、発電には0rganic Rankine Cycle (0RC)機^{10,11}、 カリーナサイクル機¹¹、0TEC 用に熱交換器を改良した高性 能 0RC 機¹²⁾等が使われる。これらの高温側温度入と発電効 率の関係を Fig. 7 に示した。

(1) ORC 機、高性能 ORC 機の比較

上記資料^{10,12}によれば、ORC 機の発電効率は、OTEC の高 温側入 25.7℃、低温側出 12.9℃で約 1.3%に対し、高性能 ORC 機は 2.2%と約 1.7 倍になる。NC-STEC で高温側入 95℃、 低温側出 17℃の場合、ORC 機の発電効率は 6.8%に対し、高 性能 ORC 機は 11.9%と約 1.7 倍になる。高温側温度と発電

Table 2 Specification and construc	tion cost of the
heat collection syst	em

Construction Construction ty price noney Tenders Reflector · Receiver · Control · Management System	Classification Item	Unit	Quanti	Unit	Amount of	Remarks
Reflector · Receiver · Control · Management System System Steel weight ton 0.74 7.0~10 6.98 5m×2.7m Reflective agent m ² 7.27 0.100 0.73 " Plate glass " 1.90 0.294 0.56 " Permeating agent " 0.00 0.100 0.00 " Reflective agent " 1.00 0.100 0.00 " Insulation m ² 1.25 0.030 0.04 " concrete m ³ 0.28 0.400 1.11 " Heating element m ² 1.25 0.030 0.24 " Control device set 1.00 1.120 " 1.12 Control device set 1.00 1.120 " 1.12 Overhead expenses " 1.00 6.82 50% Unit construction cost 10 ⁴ Y/(5m×2.7m) 20.45 " " Direct solar radiation " 2.05 " " Heat collector area ha(output 10 ⁴ kW) 68.0 " Heatransfer water pasage <td></td> <td></td> <td>ty</td> <td>price</td> <td>money</td> <td>i tollitii lib</td>			ty	price	money	i tollitii lib
Steel weight ton $0.74/7.0 \sim 10$ 6.98 $5m \times 2.7m$ Reflective agent m^2 7.27 0.100 0.73 n Particly agent n 0.00 0.294 0.56 n Reflective agent n 0.00 0.100 0.00 n Reflective agent n 1.00 0.100 0.10 n Insulation m^2 1.25 0.030 0.04 n concrete m^3 0.84 1.500 1.26 n Control device set 1.00 2.500 2.50 n Control device set 1.00 1.12 n 0.24 n Control device set 1.00 2.500 2.50 n 0.24 n Control device set 1.00 1.120 1.12 n 0.50 n Control device set 1.00 1.12	Reflector · Receiver · Contro	l · Man	agement	System		
Reflective agent m^2 7.27 0.100 0.73 n Plate glass n 1.90 0.294 0.56 n Permeating agent n 0.00 0.100 0.00 n Reflective agent n 0.00 0.100 0.00 n Insulation m^3 0.28 0.400 0.11 n Insulation m^2 1.25 0.030 0.04 n Concrete m^3 0.84 1.500 1.26 n Control device set 1.00 2.500 2.50 n Control device set 1.00 6.82 50% n Unit construction cost $per m^2$ $10^4 V/(5m \times 2.7m)$ 20.45 n n Direct solar radiation kWh (heat) / n^2 1.51 n n Direct solar radiation n 2.05 n n Heat collector area ha (output $10^4 kW)$ 48.0 n	Steel weight	ton	0.74	$7.0 \sim 10$	6.98	5m×2.7m
Plate glass " 1.90 0.294 0.56 " Permeating agent " 0.00 0.100 0.00 " Reflective agent " 1.00 0.100 0.10 " Insulation m ³ 0.28 0.400 0.11 " Heating element m ² 1.25 0.030 0.04 " concrete m ³ 0.84 1.500 1.26 " Earthwork " 0.78 0.300 0.24 " Control device set 1.00 1.26 " " Control device set 1.00 1.120 1.12 " Overhead expenses " 1.00 6.82 50% Unit construction cost 10 ⁴ ¥/m ² 1.51 Direct solar radiation " 2.05 " Direct solar radiation " 2.05 " * * * Subtotal construction fee 10 ⁸ ¥(output 10 ⁴ kW) 44.9 " * * Subtotal construction fee 10 ⁸ ¥(output 10 ⁴ kW) <td>Reflective agent</td> <td>m²</td> <td>7.27</td> <td>0.100</td> <td>0.73</td> <td>IJ</td>	Reflective agent	m ²	7.27	0.100	0.73	IJ
Permeating agent # 0.00 0.100 0.00 # Reflective agent # 1.00 0.100 0.10 # Insulation m ³ 0.28 0.400 0.11 # Insulation m ² 1.25 0.030 0.04 # concrete m ³ 0.84 1.500 1.26 # Earthwork # 0.78 0.300 0.24 # Control device set 1.00 6.82 50% Unit construction cost $10^4 \nother / (5m \times 2.7m)$ 20.45 # Construction cost per m ² $10^4 \nother / m^2$ 1.51 1.51 Direct solar radiation # 2.05 # # Gostruction cost per m ² $10^4 \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \$	Plate glass	11	1.90	0.294	0.56	11
Reflective agent # 1.00 0.100 0.10 # Insulation m ³ 0.28 0.400 0.11 # Insulation m ² 1.25 0.030 0.04 # concrete m ³ 0.84 1.500 1.26 # Control device set 1.00 2.500 # # Control device set 1.00 1.120 1.12 # Overhead expenses # 1.0 6.82 50% Unit construction cost $10^{4} \mathbb{Y}/(5m \times 2.7 m)$ 20.45 # Construction cost per m ² $10^{4} \mathbb{Y}/m^{2}$ 1.51 # Direct solar radiation WW (heat) / m ² day 1.78 Kumejima Island Scattered solar radiation # 2.05 # # Heat collector area ha (output $10^{4} \mathrm{kW}$) 68.0 # Heat transfer water passage	Permeating agent	11	0.00	0.100	0.00	11
Insulation m ³ 0.28 0.400 0.11 <i>n</i> Heating element m ² 1.25 0.030 0.04 <i>n</i> concrete m ³ 0.84 1.500 1.26 <i>n</i> Earthwork <i>n</i> 0.78 0.300 0.24 <i>n</i> Concrete set 1.00 2.500 2.50 <i>n</i> Control device set 1.00 1.12 <i>n</i> Overhead expenses <i>n</i> 1.0 6.82 50% Unit construction cost $10^4 \n^2$ 1.51 Direct solar radiation <i>w</i> (heat) / m ² day 1.78 Kumejima Island Scattered solar radiation <i>n</i> 2.05 <i>n</i> Heat collector area ha (output 10 ⁴ kW) 44.9 <i>n</i> Subtotal construction fee $10^8 \neq (output 10^4 kW)$ 44.9 <i>n</i> Heat transfer water passage	Reflective agent	11	1.00	0.100	0.10	11
$\begin{array}{ c c c c c c c c c c c c c c c c c c c$	Insulation					
$\begin{array}{c c c c c c c c c c c c c c c c c c c $	Insulation	m ³	0.28	0.400	0.11	11
concrete m^3 0.84 1.500 1.26 " Earthwork " 0.78 0.300 0.24 " Control device set 1.00 2.500 2.50 " Crockery " 1.00 1.120 1.12 " Overhead expenses " 1.0 6.82 50% Unit construction cost $10^4 scapequare 1.51 " " Overhead expenses " 1.0 6.82 50% Unit construction cost per m2 10^4 scapequare 1.51 " Direct solar radiation W 44.9 1.78 Kumejima Island Scattered solar radiation " 2.05 " " Heat collector area ha (output 10^4 kW) 44.9 " " Subtotal construction fee 10^8 \chi (output 10^4 kW) 68.0 " " Heat transfer water passage $	Heating element	m^2	1.25	0.030	0.04	11
Earthwork n 0.78 0.300 0.24 n Control device set 1.00 2.500 2.50 n Crockery n 1.00 1.120 1.12 n Overhead expenses n 1.0 6.82 50% Unit construction cost per m ² $10^4 scap{7m^2}$ 1.51 Direct solar radiation kWh (heat) / m ² day 1.78 Kumejima Island Scattered solar radiation n 2.05 n Heat collector area ha (output 10 ⁴ kW) 44.9 n Subtotal construction fee $10^8 raccount 10^4 kW$) 68.0 n Heat transfer water passage	concrete	m ³	0.84	1.500	1.26	11
Control device set 1.00 2.500 2.50 " Crockery " 1.00 1.120 1.12 " Overhead expenses " 1.0 6.82 50% Unit construction cost $10^{4} st/(5m \times 2.7m)$ 20.45 " Construction cost per m ² $10^{4} st/(5m \times 2.7m)$ 20.45 " Construction cost per m ² $10^{4} st/(m^{2})$ 1.51 " Direct solar radiation " 2.05 " " Heat collector area ha (output 10^{4} kW) 44.9 " " Subtotal construction fee $10^{8} raccupt (output 10^{4}kW) 68.0 " " Heat transfer water passage $	Earthwork	11	0.78	0.300	0.24	11
Crockery " 1.00 1.120 1.12 " Overhead expenses " 1.0 6.82 50% Unit construction cost $10^{4} \frac{1}{5} (5m \times 2.7m)$ 20.45 " Construction cost per m ² $10^{4} \frac{1}{7} (m^{2})$ 1.51 Direct solar radiation kWh (heat) / m ² day 1.78 Kumejima Island Scattered solar radiation " 2.05 " " Heat collector area ha (output 10^{4} kW) 44.9 " " Subtotal construction fee $10^{8} \frac{1}{7} (output 10^{4}kW) 68.0 " " Heat transfer water passage $	Control device	set	1.00	2.500	2.50	11
Overhead expenses " 1.0 6.82 50% Unit construction cost $10^{4} \forall / (5m \times 2.7m)$ 20.45 " Construction cost per m ² $10^{4} \forall / m^{2}$ 1.51 Direct solar radiation kWh (heat) / m ² day 1.78 Kumejima Island Scattered solar radiation " 2.05 " Heat collector area ha (output 10^{4} kW) 44.9 " Subtotal construction fee $10^{8} \forall (output 10^{4}$ kW) 68.0 " Heat transfer water passage	Crockery]]	1.00	1.120	1.12	11
Unit construction cost $10^4 array / (5m \times 2.7m)$ 20.45 " Construction cost per m ² $10^4 array / m^2$ 1.51 Direct solar radiation kWh (heat) / m ² day 1.78 Kumejima Island Scattered solar radiation " 2.05 " " Heat collector area ha (output $10^4 kW$) 44.9 " " Subtotal construction fee $10^8 rac{1}{9} (output 10^4 kW) 68.0 " " Heat transfer water passage Separately lease fee " Trunk extension m 2,000 1.8 0.36 Installation Branch extension " 11,000 1.5 1.65 " " Pump (trunk line) pieces 2 100 0.02 " " Pump (branch line 1) " 22 50 0.11 " " Pump (branch line 2) " 1,666 21 3.50 " " Overhead expenses set 1 2.82 50% Subtotal construction fee 10^8 rac{10^8 4}{m^3} 15.2 Hot water · Warm water Area ha 1.2 102m × 102m 102$	Overhead expenses	11	1.0		6.82	50%
Construction cost per m ² 10 ¹ ¥/m ² 1.51 Direct solar radiation kWh (heat) / m ² day 1.78 Kumejima Island Scattered solar radiation " 2.05 " Heat collector area ha (output 10 ⁴ kW) 44.9 " Subtotal construction fee 10 ⁸ ¥ (output 10 ⁴ kW) 68.0 " Heat transfer water passage Separately lease fee Site area ha 98 Ste area ha 98 Pump (trunk line) pieces 2 100 0.02 " Pump (trunk line) pieces 2 100 0.02 " Pump (branch line 1) " 22 50 0.11 " Pump (branch line 2) " 1,666 21 3.50 " Overhead expenses set 1 2.82 50% Subtotal construction fee 10 ⁸ ¥ (output 10 ⁴ kW) 8.46 Reservoir(Heat storage) Image: transfer water · Warm water Area ha 1.2 102m × 102m Depth m 15.0 Image: transfer water · Warm water Gauges set 1.0 0.85 0.85 Inst	Unit construction cost	10^{4} ¥/($5m \times 2.7$	(m)	20.45	11
Direct solar radiation kWh (heat) / $m^2 \cdot day$ 1.78 Kumejima Island Scattered solar radiation " 2.05 " Heat collector area ha (output 10^4 kW) 44.9 " Subtotal construction fee 10^8 ¥ (output 10^4 kW) 68.0 " Heat transfer water passage Separately lease fee " Site area ha 98 Separately lease fee Trunk extension " 11,000 1.5 1.65 Pump (trunk line) pieces 2 100 0.02 " Pump (branch line 1) " 22 50 0.11 " Pump (branch line 2) " 1,666 21 3.50 " Overhead expenses set 1 2.82 50% Subtotal construction fee 10^8 ¥ (output 10^4 kW) 8.46 Reservoir(Heat storage) Image: the storage Image: the store Image: the storage	Construction cost per m ²	10^{4} ¥/r	n ²		1.51	
Scattered solar radiation " 2.05 " Heat collector area ha (output 10^4 kW) 44.9 " Subtotal construction fee 10^8 ¥ (output 10^4 kW) 68.0 " Heat transfer water passage 5 5 Separately lease fee Trunk extension m 2,000 1.8 0.36 Installation Branch extension " 11,000 1.5 1.65 " Pump (trunk line) pieces 2 100 0.02 " Pump (branch line 1) " 22 50 0.11 " Pump (branch line 2) " 1,666 21 3.50 " Overhead expenses set 1 2.82 50% Subtotal construction fee 10^8 ¥ (output 10^4 kW) 8.46 Reservoir(Heat storage)	Direct solar radiation	kWh (b	neat)/m²	•dav	1.78	Kumejima Island
Heat collector area ha (output 10^4 kW) 44.9 " Subtotal construction fee 10^8 ¥ (output 10^4 kW) 68.0 " Heat transfer water passage Separately lease fee Site area ha 98 Separately lease fee Trunk extension m 2,000 1.8 0.36 Installation Branch extension " 11,000 1.5 1.65 " Pump (trunk line) pieces 2 100 0.02 " Pump (branch line 1) " 22 50 0.11 " Pump (branch line 2) " 1,666 21 3.50 " Overhead expenses set 1 2.82 50% Subtotal construction fee 10^8 ¥ (output 10^4 kW) 8.46 Reservoir(Heat storage)	Scattered solar radiation	11			2.05	11
Subtotal construction fee $10^8 Y (output 10^4 W)$ 68.0 " Heat transfer water passage Image: stress of the stresst	Heat collector area	ha (ou	10^{4}	kW)	44.9	11
Heat transfer water passage Introduct of the second s	Subtotal construction fee	10^{8} ¥(c	output 1	0^{4} kW)	68.0	11
Site area ha 98 Separately lease fee Trunk extension m 2,000 1.8 0.36 Installation Branch extension n 11,000 1.5 1.65 n Pump (trunk line) pieces 2 100 0.02 n Pump (branch line 1) n 22 50 0.11 n Pump (branch line 2) n 1,666 21 3.50 n Overhead expenses set 1 2.82 50% Subtotal construction fee $10^8 \mathbf{Y} (output 10^4 \mathbf{W})$ 8.46 Reservoir(Heat storage) Intervent water Area Capacity $10^4 \mathbf{m}^3$ 15.2 Hot water · Warm water Area ha 1.2 102m × 102m Depth m 15.0 Intervent Cancety $10^4 \mathbf{m}^3$ 31.2 0.18 5.46 Cut and Embankment Concrete n 1.3 3.27 4.28 Reinforcing bar included 0	Heat transfer water passage					
$\begin{array}{c c c c c c c c c c c c c c c c c c c $	Site area	ha	98			Separately lease fee
Branch extension " 11,000 1.5 1.65 " Pump (trunk line) pieces 2 100 0.02 " Pump (branch line 1) " 22 50 0.11 " Pump (branch line 2) " 1,666 21 3.50 " Overhead expenses set 1 2.82 50% Subtotal construction fee $10^8 ¥ (output 10^4 kW)$ 8.46 Reservoir(Heat storage) Image: Capacity $10^4 m^3$ 15.2 Hot water · Warm water Area ha 1.2 $102 m \times 102 m$ Image: Capacity $10^4 m^3$ 31.2 0.18 5.46 Cut and Embankment Concrete " 1.3 3.27 4.28 Reinforcing bar included Gauges set 1.0 0.85 0.85 Installation included Overhead expenses set 1.0 5.29 50% Subtotal construction fee $10^8 ¥ (output 10^4 kW)$ 15.87 Total construction cost $10^8 ¥ (output 10^4 kW)$	Trunk extension	m	2,000	1.8	0.36	Installation
$\begin{array}{ c c c c c c c c c c c c c c c c c c c$	Branch extension	11	11,000	1.5	1.65	11
$\begin{array}{ c c c c c c c c c c c c c c c c c c c$	Pump (trunk line)	pieces	2	100	0.02	11
$\begin{array}{ c c c c c c c c c c c c c c c c c c c$	Pump (branch line 1)	"	22	50	0.11	11
$\begin{array}{ c c c c c c c c c c c c c c c c c c c$	Pump (branch line 2)]]	1,666	21	3.50	11
$ \begin{array}{ c c c c c c c c c c c c c c c c c c c$	Overhead expenses	set	1		2.82	50%
$\begin{array}{ c c c c c c c c c c c c c c c c c c c$	Subtotal construction fee	10^{8} ¥(a)	output 1	0^{4} kW)	8.46	
$ \begin{array}{ c c c c c c c c c c c c c c c c c c c$	Reservoir(Heat storage)				in the second	
$ \begin{array}{c c c c c c c c c c c c c c c c c c c $	Capacity	10^{4}m^{3}	15.2			Hot water · Warm water
$ \begin{array}{ c c c c c c c c c c c c c c c c c c c$	Area	ha	1.2			102m×102m
$ \begin{array}{ c c c c c c c c c c c c c c c c c c c$	Depth	m	15.0			
	Earthwork	10^{4}m^{3}	31.2	0.18	5.46	Cut and Embankment
	Concrete	"	1.3	3.27	4.28	Reinforcing bar included
Overhead expensesset1.05.2950%Subtotal construction fee 10^{8} ¥ (output 10^{4} kW)15.87Total construction cost 10^{8} ¥ (output 10^{4} kW)92.29	Gauges	set	1.0	0.85	0.85	Installation included
Subtotal construction fee 10^{8} ¥ (output 10^{4} kW)15.87Total construction cost 10^{8} ¥ (output 10^{4} kW)92.29	Overhead expenses	set	1.0		5.29	50%
Total construction cost 10 ⁸ ¥(output 10 ⁴ kW) 92.29	Subtotal construction fee	10^{8} ¥(a)	output 1	0^{4} kW)	15.87	
	Total construction cost	10^{8} ¥(a)	output 1	0^4 kW)	92.29	
Per heat collecting plate area 10^4¥/m^2 2.06	Per heat collecting plate are	<u>a 1</u> 0 ⁴ ¥	$/\mathrm{m}^2$		2.06	

Tube protection:



Table 3 Specification and construction cost of water intake facility

	Item	Unit	Quantity	Remarks
~	Flow rate	m ³ /d	9.05	From thermal cycle
ion	Water temperature	°C	7.0	Optimized from condition of Kumejima
cati	Depth of water	m	700	"
cifí	Extension of intake pipe	km	3,700	"
Spe	Pipe diameter	mm	1,000	By optimization
•.	Water head difference	m	7	//
ost	PE pipe	10^8 ¥	3.43	HSPE pipe, SD 21
n c	Laying cost]]	3.75	Using GPS platform
tio	Tube protector	11	4.51	HDD method (Use DD 330)
ruc	Pit]]	0.68	PC well φ 5,000
nst	Overhead expenses	11	4.24	30%
ő	Total	11	16.60	

効率に関するメーカーヒアリングでは Fig. 7の (※)で示す 範囲に分布した。これは主に低温側熱交換器の性能による と考えられ、熱交換器性能については同様の報告¹³⁾がある。

(2) ORC 機、カリーナサイクル機の比較

ORC 機とカリーナサイクル機の高温側温度に対する発電 量が参考文献¹¹⁾に示されている。関連する諸設定を一般的 な値とし、高温側熱源温度 95℃で両者の発電効率(6.8%: 13.6%)の比は 2.0 とほぼピークを迎える。

(3) 高性能カリーナサイクル機

熱交換器の高性能化による高性能 ORC 機に対し、高性能 カリーナサイクル機は市販に至っていないが、ORC 機と高 性能 ORC 機、ORC 機とカリーナサイクル機の高温側温度と 発電効率の関係から、高温側・低温側の出・入温度、所内 率を仮定し、高性能カリーナサイクル機の発電効率を推定 した。例えば高温側入 95℃、出 55℃、低温側入 7.0℃、出 17℃、温度差 78℃と設定した場合、高性能 ORC 機の発電効 率 11.9%に対し、高性能カリーナサイクル機では 18.6%と 1.6 倍になる。これらから、NC-STEC では高性能カリーナサ イクル機が適するとした。

2.3.2 設備費

大規模出力に対応できる高性能カリーナサイクル機は 市販されていないが、市販済みの仕様と装置費を基準に、 前報¹⁾同様、タービン回り、熱交換器回りに分割し、カリ ーナサイクル機のタービン回りは既往資料¹¹⁾に従い、ORC 機の1.64 倍とした。熱交換器回りは別途熱交換面積を算出



Fig. 7 Generation efficiency of each model - effect of temperature difference of heat cycle

Table	4	Power	plant	construction	cost
-------	---	-------	-------	--------------	------

Item	Unit	quantity	Remarks
Main equipment	Billion ¥	26.95	
Incidental equipment	11	7.19	
Total	11	34.14	

し、べき乗則を適用した。

乗数は一般的に 0.6~0.9 辺りで、事例として、公共事業 は 0.9 程度(雇用対策的な都合)、プラント工事は 0.7 程 度(ターボデン ORC 発電装置の例は 0.82)、太陽光発電は 0.45 程度(NEDO, 規模と技術進歩込み)がある。ここでは、 発電装置の例¹¹⁾に倣い 0.82 とした。これは技術進歩も踏 まえると達成可能な範囲と考える。

2.4 運用コスト

全体の耐用年数は部材ごとの耐用年数と工事費の重み 付けで加重平均した。維持管理費は参考文献¹²⁾を基準に 0.82 乗則を仮定した。集熱装置の運転費は装置制御に要す る仕事量から電力を算出した。

取水装置は管径拡大による取水コストの低減が大きい ため取水量ごとに概略設計を行った。その際、施工上、管 径の上限を φ 3,000 mm⁷⁾とした。耐用年数は 30 年、維持管 理費は文献¹²⁾を基準に 0.82 乗則を仮定した。

発電装置の維持管理費は文献¹²⁾を基準に 0.82 乗則を仮 定した。

3. 発電コストの試算結果と評価

比較のため久米島の条件の下での、NC-STEC および OTEC における高温側熱源温度と発電コストとの関係を、1万、 10万、100万 kW の出力ごとに Fig. 8 に示す。

ここで OTEC、NC-STEC、高温側熱源温度、出力の違いに かかわらず、一連の計算手法、最適化手法は同じであり、 OTEC の既往文献¹²⁾ (1,250kW,年平均水温 25.7℃で 120 円/kWh)¹⁾をベンチマークとし、条件を揃え最適化後の OTEC 発電コスト(43.4円/kWh)¹⁾と出力拡大時発電コストの連 続性を確認し、計算手法、最適化手法のおおよその妥当性 を検証した。



3.1 OTEC

3.1.1 発電装置、規模、表層水水温ごとの発電コスト

ORC機は本来、高温側熱源温度 100℃~300℃で性能が発揮され、20℃~30℃では高性能 0RC機との差は大きい。この温度帯ではアンモニア-水の特性からカリーナサイクル機は使えないことから、高性能 0RC機が選択される。Fig. 8の高温側熱源温度 22℃~30℃の上から点線、破線、実線は出力1万規模の発電コスト(年平均水温 25.7℃で 27.7 ¥/kWh)、10万 kW(18.3 ¥/kWh)、100万 kW(12.1 ¥/kWh)を示す。注目すべき点に年平均表層水水温 25.7℃の発電量に対し、水温 22℃で 56%、30℃で 150%と変動し、水温変化(季節変動)の発電コストへの影響は大きいことがある。

3.1.2 考察·評価

取水設備工事費はスケールメリットが大きいが、出力1 万kWで表層水取水量は128万m³/d、取水管は φ3,000 mm×2 本 (φ3,000 mm は施工上の上限)、深層水取水量は189万 m³/d、取水管は φ3,000×2本と既にスケールメリットを享 受しており、規模を拡大しても発電コストは大きくは低減 しない。また、発電コストの45%を占める発電装置は実証 段階にあり、今後量産化されればコスト低減が期待される が、取水装置費は低減しないため、0TEC でその機会は得る ことは難しいと考える。

3.2 非集光型太陽熱温度差発電 (NC-STEC)

3.2.1 高温側熱源温度の最適化

発電コストは高温側熱源温度が高いほど有利になるが、 熱媒体に常圧で水を使う場合、レシーバーでの集熱温度は 100℃未満となり、エネルギーロスと余裕を見て貯水池での 水温を95℃と設定した。この時、熱媒体温度はレシーバー、 集合水路、貯水池の移動時に0.89℃低下すると計算され、 レシーバーでは95.9℃が必要となるが、温度分布の振れを 含めても実現可能と考える。

3.2.2 規模ごとの発電コスト

出力1万kWで11.3 ¥/kWh、10万kWで7.0 ¥/kWh、100 万kWで4.6¥/kWhとなる。日射量は久米島の環境で、内外 に比べて特に有利なことはないが、NC-STECの発電コスト は火力発電に匹敵する。

3.2.3 考察·評価

NC-STEC は日射に恵まれれば火力発電に対しても競争力 を持ち、集熱用地を確保できる地域において有力である。 蓄熱(貯水)と低温安定した海洋深層水により、時間変動、 季節変動の影響ないことも注目に値する。貯水容量は最適 化の対象になるが、例えば3日間(65時間)雨天でも定格 で24時間連続発電できるようにした場合、気象統計から稼 働率を算出すると88.5%となった。NC-STEC は日射に依存し ながらも 0TEC の稼働率 90.5%と同等が期待できる。(定期 点検等は貯水池に熱水がなくなる期間に行う前提)

4. NC-STEC の特徴、類似発電方式との違い

再生可能エネルギーに依拠する、CSP²、陸上型 OTEC¹²、 浮体式 OTEC (NEMO モデル)¹⁵、NC-STEC、PV¹⁶について、 日射条件、熱効率、高温側・低温側熱源、発電装置仕様、 集熱装置面積、敷地面積、事業費、減価償却費、維持管理 費、借地料、租税公課などの年間経費、売上、利益、ROA (総資本利益率)など、それぞれの発電コスト算出過程、 結果を通して Table 5 に比較した。

4.1 対象日射量、集熱効率、発電量

対象日射量(kWh(熱)/m²/d)は集熱方式により異なり、 PVは4.04(年間最適傾斜角全天日射量)>NC-STEC 3.14 (配置を含めた最適傾斜角直達日射量+散乱日射量の一部) >CSP 2.80(最適傾斜角直達日射量)となる。

集熱量(kWh(熱)/m²/d)は日射量に集熱効率を乗じ、PV 3.83>NC-STEC 2.55>CSP 1.45となる。集熱板面積当たり の発電量(kWh(電力)/m²/d)は集熱量に発電効率を乗じ、 NC-STEC が 0.473となり、PV の 0.422、CSP の 0.384を上回 る。地域ごとに設計、比較を要するが、NC-STEC の熱効率 が最も高い場合もあり得ることが分かった。

4.2 高温側·低温側流量、熱交換面積(比)、所内率

NC-STEC は OTEC の改良を目指したものであるが、高温側 流量は 1/46、低温側流量は 1/21、熱交換プレート面積(比) は 1/32、所内率は 1/8.4、送電量は 1.32 倍と、OTEC とは 全く異なる形態、運用になることが分かった。

4.3 事業費

事業費(億円)は、浮体式 OTEC 422<NC-STEC 910<PV 911 <CSP 1,180<陸上式 OTEC 2,290 となる。

陸上式 OTEC は表層水・深層水取水量、熱交換面積(比) が大きく、工事費も嵩む。

浮体式 OTEC は表層水・深層水取水量、熱交換面積など は陸上式と同じであるが、取水管延長が短く工事費は低減 する。NEMO モデルでは一般的 ORC 機を用い、熱交換器の耐 用年数は短いが工事費を抑え、ROA を改善している。

NC-STEC では OTEC に比べ海洋深層水取水量は 1/21、工 事費は 1/16、発電装置は熱交換面積の減少に加え、高温側 にチタンを使う必要がなく、価格の重みをつけた比較では 1/75 となり、全体の工事費で OTEC の 1/2.5 となる。

PV は太陽エネルギーが希薄なことによる低圧直流の集 約過程のロスは避けられない(所内率で控除)。また稼働 率が低く、発電量に対する設備量(工事費)は大きくならざ るを得ないと考える。

4.4 発電コスト

発電コスト (¥/kWh) は、NC-STEC 7.0<PV 9.7<浮体式 OTEC 11.7<CSP 13.4<陸上式 OTEC 18.3となる。NC-STEC はスケールメリットが大きく、10万 kW 規模になれば、火 力発電と比べても価格競争力を有することが分かった。

Table 5 Comparative study of various OTECs with solar heat and PV power generation systems

			Unit	CSP *1, 2)	OTEC Kume island ¹²⁾	Floating OTEC Martinique ¹⁵⁾	NC-STEC	PV ¹⁶⁾
Annual power generation		10MWh/y	77, 400	79, 200	79, 200	77, 500	77, 500	
Max. power output		k₩	177, 000	100, 000	100, 000	100,000	670,000	
Ċ.	T	Entrance	$^{\circ}$ C	400	25. 7	25.7	95	-
side	lemperature	Exit	//	250	18.3	18.3	55	-
lot	Intake amount		$10^4 \mathrm{m}^{3/\mathrm{d}}$	-	1, 280	1, 890	27.8	-
ł	Station use rate ①		%	-	5.0%	1.0%	0.6%	-
е	T	Entrance	°C	- (20-30)	7.0	7.0	7.0	-
sid	Temperature	Exit	//	- (30-50)	11.9	11.9	17.0	-
001	Intake amount		$10^4 \mathrm{m}^3/\mathrm{d}$	_	1,890	2, 270	90. 5	-
С	Station use ra	te 2	%	_	19.2%	1.0%	1.5%	-
	Generator type		_	Rankine cycle	High perf. ORC	Common ORC	High perf. Carina	-
COL	Carnot efficien	ncy	11	-	4.0%	4.0%	20.7%	-
erat	Generation eff	iciency	11	26.4%	2.2%	1.3%	18.6%	11. 0%*7
gen	Heat exchanger	area ratio	ratio	-	15,100(H), 6,700(L)	26,800(H), 11,400(L)	465(H),225(L)	_
wer	Station use ra	te ③	%	-	3.9%	-	1.2%	-
Ро	Station use(Σ)	1)~(3))]]	8.0%	28.1%	40.9%	3.4%	18.0%*8
	Amount of trans	smitted power	10MWh/y	71, 200	56, 900	46, 800	74, 900	63, 600
	Global Horizon	tal Irradiation(GHI) *2	k₩h/m²/d	3.83	-	-	3.83	3.83
ion	Direct Normal	Irradiation(DNI)	11	1.78	_	_	1.78	1.78
iat	Scattering amo	unt of solar radiation]]	2.05	-	-	2.05	2.05
rad	DNI of annual o	optimum angle fixed *3 ④	11	-	-	-	-	1.99
lar	DNI of movable	optimum angle *4④	11	2.80	-	-	2.63	-
Sc	Collected scat	tered radiation*5 (5)	11	-	-	-	0.50	2.05
	Collected heat,	/energy (④+5))	11	2.80	-	-	3.14	4.04
u	Reflection/ con	ntrol	%	80.0%	-	-	89.7%	95.0%
stio cy	Receiver		11	90.0%	-	-	91.7%	-
llec	Transportation		//	80.0%	_	-	99.3%	-
t co ffic	Heat storage		//	90.0%	_	-	99.3%	-
Hea ⁻ e	Total		11	51.8%	-	-	81.2%	95.0%
	effective heat,	/energy	k₩h/m²/d	1.45	-	-	2.55	3.83
ion	Per area genera	ation	k₩h/m²/d	0.384	-	-	0.473	0.422
llat rea	Heat collection	n area	ha	552	-	-	449	504
ista. a	Site placement	efficiency	%	50.0%	_	_	45.9%	56.3%
Ir	Site area		ha	1, 100	_	_	977	895
	Heat collection	n etc.	10 ⁸ ¥	837	176	10.6	610	857
st	Their amortiza	ation expense(life time)	10 ⁸ ¥/y(y)	41.8 (20)	5.9 (30)	0.4 (30)	23.0 (26.5)	45.6 (20)
CO.	Deep seawater		10 ⁸ ¥	-	639	40.4	41.2	-
tial	Their amortiza	ation expense(life time)	10 ⁸ ¥/y(y)	-	21.3 (30)	1.4 (30)	1.4 (30)	-
Ini	Generator etc.		10 ⁸ ¥	344	1, 477	371	259	55
	Their amortiza	ation expense(life time)	10 ⁸ ¥/y(y)	17.2 (20)	49.2 (30)	35.7 (7.5*6,30)	8.6 (30)	2.7 (20)
	Total	Initial cost	10 ⁸ ¥	1, 180	2, 290	422	910	911
and st	Total amortiza [.]	tion expense	10 ⁸ ¥/y	59.0	76.4	37.4	33. 0	45.6
ses ; 1 co:	Operation and n	maintenance expense	//		14.8	14.8	7.9	5.3
pens tion	Lease land fee	expense	//	7.3	_	_	6.5	5.9
r exj ieral	Taxes and dues	expense	//	6.7	13.0	2.4	5.1	5.1
Year gen	To	tal expense	//	95.7	104.2	54.6	52.5	61.9
6	Generation cos		¥/kWh	13.4	18.3	11.7	7.0	9.7
Sal	les (unit price	IU ¥/kWh)	10°¥/y	71.2	56.9	46.8	74.9	63.6
Ope	erating (ordinar	y) Profit))	-24.4	-47.3	-7.8	22.4	1.6
ROA	ł		%	-2.1%	-2.1%	-1.8%	2.5%	0.2%

Notes) *1: SEGS LS-4, Mojave Desert, *2: Horizontal area basis, *3: Optimum angle in Kume island, *4: Annual fixed optimum angle 26.35° , *5: Quoted from schematic design of NC-SH, *6: Life time of aluminum used for heat exchanger only, *7: Module conversion efficiency, *8: Assumed to be improved from NEDO report (2011)¹¹⁾

4.5 ROA

売電単価を 10 ¥/kWh と仮定したとき、ROA は、NC-STEC 2.5%>PV 0.2%>浮体式 OTEC -1.8%>CSP -2.1%, 陸上式 OTEC -2.1%となる。PV が普及した際の ROA 6~7%と比べいずれも 不十分で、久米島の環境、出力 10 万 kW ではどの方式でも 事業化は難しいことが分かる。

4.6 発電方式別特性と評価

CSP では集熱温度を高めるため、結果としてエネルギー ロス、集熱装置の工事費、制御費などが大きくなっており、 これを上回る潤沢な日射量、広大な集熱用地が必要となる ので、現実的には熱帯の砂漠向けと考える。

陸上式 OTEC、浮体式 OTEC は高温側熱源を表層水とする 限り発電効率が低く、表層水・深層水取水量、熱交換面積 は膨大になる。出力1万 kW でもスケールメリットは享受し ており、規模拡大によるコスト低減は大きくはない。

PV ではセル温度上昇(モジュール効率低下)や太陽エネ ルギーが希薄なため低圧直流の集約過程のロス(慣例に倣 い所内率で控除)は避けられない。

ここまで再生可能エネルギーによる発電方式で基幹電源 に足るものは原理的になかったが、NC-STEC は発電コスト の低減に加え、貯水(蓄熱)池により所定出力で24時間連 続運転と稼働率88.5%が可能で、安定性、負荷追随性、資 源が無尽蔵など、基幹電源として優れる。サイト(日射量、 集熱用地、深層水取水条件)と規模(電力需要)を確保で きれば、売電価格を10 ¥/kWhと安く抑えながら ROA は6% と投資要件を適え、民間事業として普及できると考える。

【注】Table 5 の詳細条件の補足

Table 5 は発電方式による違いを確認することを目的とし、環境条件は久米島¹²⁾で統一した。発電方式ごとの諸元は参考文献^{2),12),15),16)}による。以下、項目ごとに設定理由を述べる。

(1) 年間発電量、出力、稼働率

出力 10 万 kW 規模の発電量で統一し、各方式の出力は年 間発電量から稼働率を考慮し逆算した。稼働率は参考文献 より CSP 50%、陸上式 OTEC (久米島) 90.4%、浮体式 OTEC 90.4%、 PV 13.2%とし、NC-STEC は気象条件より貯水池容量を最適 化し(発電コスト最小) 88.5%とした。

(2) 熱サイクル設定温度、発電効率、熱交換面積

低温側入7.0℃は久米島の環境下で水温・流量・取水施 設工事費から最適化した。熱サイクル設定温度は前報¹⁾Fig. 2と同じように、流量、発電効率、高温側・低温側熱交換 プレート面積(比)を最適化し、決定した。

(3) 所内率

所内率①、②は流量からポンプ動力を算出、発電量で除 し、③は基準値¹²⁾に対する流量比から算出した。PVの所内 率は NED0 の手引書(2011)¹⁶⁾よりさらに改良されると仮定 し 18%とした。太陽エネルギーが希薄なこと、直流で集め、 直流・交流変換することに起因し、大幅な低減は難しい。

(4) 日射量、集熱効率など

CSP、NC-STEC は可動式で日射は最適傾斜角直達日射量と なる。NC-STEC は非集光型の特性から散乱光の一部を集熱 し、散乱光の取込率は概略設計に基づく。PV は固定式で年 間最適傾斜角全天日射量となる。地域別全天日射量、直達 日射量のデータは NEDO のデータベースから引用し、最適傾 斜面直達日射量は緯度を考慮した計算値である。

(5) 工事費、耐用年数

それぞれの出典^{2)~6}の出力と工事費を基本に、必要面積 は出力に比例、対象日射量に反比例し、工事費は1万kW の面積(工事費)を基準に0.82乗則により算出した。耐用 年数等はそれぞれの出典による。浮体式 OTEC は NEMO モデ ルを久米島の環境に適用したものである。発電装置は NEMO モデルに準じ、一般的 ORC 機とし、熱交換器の耐用年数は 7.5年と仮定した。PV の工事費は実績の平均であり、耐用 年数は20年と仮定した。

(6) 年間経費

運転維持費は参考文献¹²⁾に基づき、NC-STECの運用環境 から想定した。借地料は休耕地を前提に100¥/m²/yとした。 租税公課は対事業費率0.565%とした。

5. 事業化に向けた考察

日射量、出力規模に対する発電コストの感度を分析し、 事業化に向けてサイトの要件を確認する。

5.1 発電コストへの日射量の影響

日射量が発電コストに与える影響を出力(規模)ごとに CSP、PVと比較してFig.9に、各サイトの年平均最適傾斜 角全天日射量をNoteに示す。

日射量が大きくなると発電コストは低減するが、CSPでは 影響が顕著で、PV、NC-STECと緩和される。NC-STECは日射 量に対し適用範囲が広いこと、また、1万、10万、100万 kW スケールメリットを踏まえると、日射量は出力(電力需 要)で代替できることが分かる。

5.2 世界の適地

Fig. 10 は世界の海底地形と日射量を重ね合わせたもの である。赤枠で示す日射量に恵まれ、海洋深層水の良好 な取水サイトは多い。また太陽熱、海洋深層水は実用的に 無尽蔵で、NC-STECの発電コスト低減により化石燃料を代 替できると考える。

5.3 段階的拡張と海洋深層水のカスケード利用

5.3.1段階的拡張の必要性

規模が小さいときは、発電方式に依らず発電コストは高いが、売電価格を抑えることは地域の発展に重要である。 NC-STEC はサイト(日射量、深層水取水条件)と規模(電力需要)に恵まれれば、売電単価を抑えても事業化が可能である。しかし多くの離島の電力需要は当初は1万kW以下、開発が進んでも1万~10万kWと想定でき、出力1万kW、 売価を10¥/kWhとした場合、ROAは1.8%で民間事業として 成り立たない。一方では事業化に際しては小規模から段階 的に拡張、実績を積む必要がある。

これらへの対策として、陸上設置の NC-STEC は次に述べる海洋深層水のカスケード利用で収益を改善することができ、全体で所要の ROA¹⁷⁾を満足し、民間からの投資、融資を期待できると考える。

5.3.2 海洋深層水のカスケード利用

日本には 30 年に及ぶ研究の蓄積があるものの、海洋深層 水は取水コストが高く、事業化は難しいとされてきたが、 NC-STEC (陸上取水)では発電後の温排水をカスケード利用 でき、取水コストをアロケーション¹⁷⁾することで小規模で も双方の事業性を確保できると考える。

カスケード利用における海洋深層水の需要では、ハワイ の実績(25万m³/d)、久米島の計画(24万m³/d)などから、 出力10万kWにおける深層水取水量90万m³/d程度までは有 効利用が可能と思う。4.2項で述べたようにNC-STECの海洋 深層水取水量(低温側流量)は出力1万kWで9.1万m³/dと OTECの189万m³/dに比べて1/21と小さく、無駄が生じな いことも事業化の重要な要件となる。





Legend	10 MW	100 MW	1,000 MW
CSP		—	-·- <u>O</u> -·-
PV	······ <u>\</u>		-·- <u>A</u> -·-
NC-STEC	·····	——	-·



Fig. 10 Sites suitable for NC-STEC in the world

6. 結言

6.1 NC-STEC の発電コスト、事業性

久米島の条件で OTEC と NC-STEC を比較すると、発電コス
ト(¥/kWh)は、1万 kW で 27.7 に対し 11.3、10万 kW で 18.3
に対し 7.0、100万 kW で 12.1 に対し 4.6 となる。世界を対
象に例えば比較的日照に恵まれるインドネシアでは、1万
kW で 7.5、10万 kW で 4.5、100万 kW で 3.0 となる。

NC-STEC は安全性、安定性、拡張性などを備え、発電コ ストが火力発電より小さくなることで、基幹電源として普 及を期待できる可能性がある。

6.2 今後の課題

NC-STEC は既往技術の組み合わせで、製作や施工に新た な研究開発を要しないが、発電方式として全体の組み合わ せは初めてであり、各分野の最先端技術のカスタマイズ、 施設諸元、運用の設定値の最適化を含め、実証を要する。

例えば非集光型太陽熱集熱装置の試設計では反射率や透 過率はカタログ値を用い、各種設定値は最も確からしい値 を採用しているが、発電コストに影響が大きい部材につい ては必要に応じて要素技術の開発も望まれる。

6.3 多分野技術の融合、コストエンジニアリング、最適化(マクロエンジニアリング)の普及

太陽熱発電、海洋温度差発電はそれぞれ単独では立地条 件が限られるか、発電コストが高くなり、なかなか再生可 能エネルギーの普及に至っていないが、それぞれ再生可能 エネルギーを用いる最先端技術である。NC-STEC は太陽熱 発電、海洋温度差発電の長所、更には多分野の先端技術成 果を融合しながら、コストエンジニアリング、諸設定の最 適化により、発電コストの低減を試みたもの(マクロエン ジニアリング)である。

集熱装置の形態(経験と設計力)、構造詳細、各種設定、 制御、貯水池容量の最適化などでは、業際を超えるデータ と全体的な最適化、コストエンジニアリングが事業化を可 能ならしめると考える。また、発電コスト低減にはサイト を選ぶこと、スケールメリットの享受が望ましいが、事業 化に当たっては小規模からの段階的拡張が求められる。そ の際、事業性を維持するため海洋深層水のカスケード利用 が不可欠であろう。地球規模に及ぶような、従来にはない 課題を対象にする場合、或いは従来の技術分野の枠にとら われない解決策が求められ、異業種・多分野にわたる技術 の融合が必要になるとき、本技術開発の手法(マクロエン ジニアリング)が効果を発揮する。

ここでは熱源を太陽熱および海洋深層水冷熱としたが、 地熱含め、地域に賦存する比較的低品位な再生可能エネル ギーを活用し、マクロエンジニアリング的アプローチによ り発電コストを大幅に低減する、普遍性を有する手法と考 える。改めて、設計力(今回は試行錯誤で粘り強さである が)を培い、コストエンジニアリング、最適化、およびマ クロエンジニアリングの普及を訴えたい。

文 献:References

- Nigeme, E.; Kojima, T.; Ito, T.; Suzuki, S., Cost evaluation and reduction of OTEC by optimization of individual components including water intake facilities, *J. Jpn. Inst. Energy*, 95, 653-662 (2016): 逊目英正; 小島紀徳; 伊藤拓哉; 鈴木誠一, 取水設備 を含む個別最適化による海洋温度差発電コストの低減 と評価, 日エネ誌, 95, 653-662 (2016)
- 2) Solaripedia, Solar Parabolic Trough, Table 4 Performance and cost indicators, SEGS LS-4 Mojave Desert, pp. 38-39, http://www.solaripedia.com/files /967 (Last access: 2015.8.2)
- 3) TERADA IRON WORKS CO., LTD., Vacuum tube type solar heat utilization system (2014.1): 寺田鉄工所; 真 空管式太陽熱利用システム (2014.1)
- Michael J. Wagner, Results and Comparison from the SAM Linear Fresnel Technology Performance Model, 2012 World Renewable Energy Forum Denver, Colorado May 13–17, 2012
- 5) M. A. Mustafa; S. Abdelhady; A. A. Elweteedy, Analytical Study of an Innovated Solar Power Tower (PS10) in Aswan, International Journal of Energy Engineering 2012
- Mitaka Kohki Co., Ltd., Personal communication (2014.8.11): 三鷹光器(株)のヒアリングに基づく概 数 (2014.8.11)
- 7) New Energy and Industrial Technology Development Organization (NEDO) Technical evaluation committee Marine Resource Utilization System Development Subcommittee, Rational use of energy "Development of marine resource utilization system" Interim Evaluation Report (2002.6):新エネルギー・産業技 術総合開発機構 (NEDO) 技術評価委員会 海洋資源活 用システム開発分科会, エネルギー使用合理化「海洋 資源活用システム開発」中間評価報告書 (2002.6)
- Besign Water Co., Ltd; Hitachi, Ltd., Composition study on infrastructure project of multi-stage use of deep seawater in the Republic of Maldives, Outline of basic plan of water intake facility of Hulhumale Island (2011.9): (株) デザインウォー ター;日立製作所,モルディブ共和国における海洋深 層水多段利用インフラ事業の案件組成調査 フルマレ 島 取水施設 概略基本計画報告書 (2011.9)
- 9) Makai ocean engineering, Inc.; Hitachi, Ltd., Infrastructure Systems Company, A proposal for engineering and conceptual design study for a deep seawater supply for Hulhumale, Maldives, 2012.3
- 10) Pratt & Whitney Power Systems; Turboden Co., Ltd., Document of meeting 100511 ronzello Organic Rankine Cycle Waste Heat Power Generation. pdf (Last access:

2014.1.18)

- Engineering Advancement Association of Japan, Feasibility studies report of the low-temperature geothermal power generation that will contribute to regional development (2012.3): (一財)エンジニアリ ング協会,地域開発に資する低温地熱発電の可能性調 査研究報告書(2012.3)
- Kumejima-cho Okinawa-ken, Kumejima deep seawater compound use survey report, Green decentralization business of power reform promotion(2011.3): 沖縄 県久米島町, 久米島海洋深層水複合利用基本調査報告 書, 緑の分権改革推進事業 (2011.3)
- 13) Kobe Steel, Ltd.; Saga University, The next generation ocean energy power generation technology development (OTEC), 2014 NEDO New energy achievements report meeting proceedings (2014.9.16): 神戸製鋼所; 佐賀大学, 次世代海洋エ ネルギー発電技術開発(海洋温度差発電), 平成 26 年 度 NEDO 新エネルギー成果報告会予稿集(2014.9.16)
- 14) NEDO, Large scale solar power generation system introduction guide (2011.3): NEDO, 大規模太陽光発 電システム導入手引書(2011.3), http://www.nedo.go.jp/library/mega-solar.html (Last access:2014.9)
- 15) Akuo Energy France, Press Releases, Video gallery and What we do from HP, http://www.akuoenergy.com /en/home.html (Last access: 2015.12) , http://www.akuoenergy.com/en/what-we-do/ocean-th ermal-energy-conversion.html, http://www.akuoenergy.com/en/what-we-do/ocean-th ermal-energy-conversion/nemo.html (Last access: 2015.12) , http://www.akuoenergy.com/nemo (Last access: 2015.12)
- 16) The Agency for Natural Resource and Energy, Investigation Committee for general resources energy, Long-range estimate of energy supply and demand subcommittee, Generation cost inspection working group, Report about inspection such as the generation cost for the long-range estimate of energy supply and demand subcommittee (2015.5): 資 源エネルギー庁,総合資源エネルギー調査会,長期エ ネルギー需給見通し小委員会,発電コスト検証ワーキ ンググループ,長期エネルギー需給見通し小委員会に 対する発電コスト等の検証に関する報告 (2015.5)
- 17) Nigeme, E., Deep seawater project at Tateyama, Japan Macroengineering Society Symposium 2016~Local creation by utilizing deep seawater~ (2016.11): 沙目英正,館山における海洋深層水事業,日本マクロ エンジニアリング学会シンポジウム 2016~海洋深層水 活用による地方創生~ (2016.11)